

1 定例監査

平成28年は、平成27年度の事業執行分について監査を実施し、指摘事項112件、意見・要望事項4件を行いました。

指摘事項等116件を区分別に整理すると、表のとおりです。

項目	区分	件数	主な内容
歳入 (収入)	会計処理	10件	収納や精算の手続を適正に行うよう求めたもの
	債権管理	3件	滞納整理事務を適切に行うよう求めたもの
	都税	7件	土地の評価(用途認定)を適正に行うよう求めたもの
歳出 (支出)	契約	53件	契約仕様書の作成を適正に行うよう求めたもの 契約の履行確認を適正に行うよう求めたもの 契約を集約し競争性を確保するよう求めたもの
	会計処理	4件	資金前渡の処理を適正に行うよう求めたもの
財産	財産管理	3件	用地の使用許可を適正に行うよう求めたもの
	物品管理	5件	使用していない設備の取扱いを適切に行うよう求めたもの
その他	情報管理	22件	個人情報のデータ消去を適切に行うよう求めたもの 外部記録媒体(USBメモリ等)の使用・管理を適切に行うよう求めたもの
	システム	2件	情報セキュリティ監査を実施するよう求めたもの
	その他	7件	広報イベントの運営を適切に行うよう求めたもの
合計		116件	

監査を行うに当たっては、事前に契約案件一覧や予算執行状況などで対象局の事務事業全体の状況を把握したうえで、監査案件を抽出しています。

また、都政を取り巻く状況を踏まえて、都民の関心が高い事項やリスクの高い事項などを「重点監査事項」として設定することで、効率的な監査に努めています。

重点監査事項



平成28年は、以下の3項目から各局ごとに重点監査事項を選定しました。

- **個人情報管理**
…マイナンバー制度の開始等を背景に個人情報を取り扱う事務・事業について収集・保管等が適正に行われているか検証し、8局に対し21件の指摘等を行いました。
- **事業実施部門の外部委託**
…都の行政改革による事務・事業の外部委託化の推進を背景に、都民へのサービス水準が維持されているかなどについて検証しました。
- **業務の内部統制**
…本庁など指導部門による事業所への指導・調整等の統制が適切に行われているか検証し、2局に対し3件の指摘を行いました。

主な指摘事項

授業料の収納、学校徴収金の精算が適切に行われていなかったもの【会計処理（歳入）】

- ・高等学校を退学した生徒の学校徴収金について、退学から期間が経過しているにもかかわらず適切な精算処理が行われていない
 - ・現金収納した授業料について、指定金融機関等への払込みを速やかに行っていないなどの事例が認められました。
- そこで、授業料の収納及び徴収金の精算を適切に行うよう求めました。

契約を分割発注していたことにより競争性が確保できていなかったもの【契約】

契約締結に当たっては入札が原則ですが、予定価格が一定額以下の場合、入札によらず随意契約によることが認められ、また、予定価格が30万円未満の随意契約では、複数ではなく単数の見積書徴取で差し支えないとされています。

しかし、複数の局で、同時期に同種の契約を別々に締結したため、契約を集約すれば入札や複数の見積書徴取など競争性が確保できた案件がありました。

そこで、契約事務を適切に行うよう求めました。



エックス線撮影装置の適切な取扱いができていなかったもの【物品管理】

動物愛護センターの医務室に設置しているエックス線撮影装置について、平成22年度以降一度も使用されていないにもかかわらず、委託契約による漏えい線量測定を行っていました。

そこで、今後使用しない場合は廃棄するなど、適切な取扱いを求めました。

私物外部記録媒体の庁舎内への持込禁止を周知していなかったもの【情報管理】

病院経営本部では、個人情報等を組織的かつ安全に保存するため、各病院にファイルサーバを導入しましたが、私物外部記録媒体の持込禁止を周知していなかったため、持ち込まれていました。

そこで、持込禁止について各病院への指導及び周知の徹底を求めました。

◎ 東京都財務諸表について

東京都では、平成18年4月から複式簿記・発生主義会計の考え方を取り入れた新たな公会計制度を導入し、東京都財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、キャッシュ・フロー計算書、正味財産変動計算書及び附属明細書）を作成・公表しており、東京都監査委員は、定例監査の中でこれら財務諸表の監査を行っています。

平成27年度東京都財務諸表は、監査を実施した範囲において、東京都会計基準に準拠して作成されているものと認められました。